

キリスト教の礼拝で用いる暦のことを「教会暦」と言います。

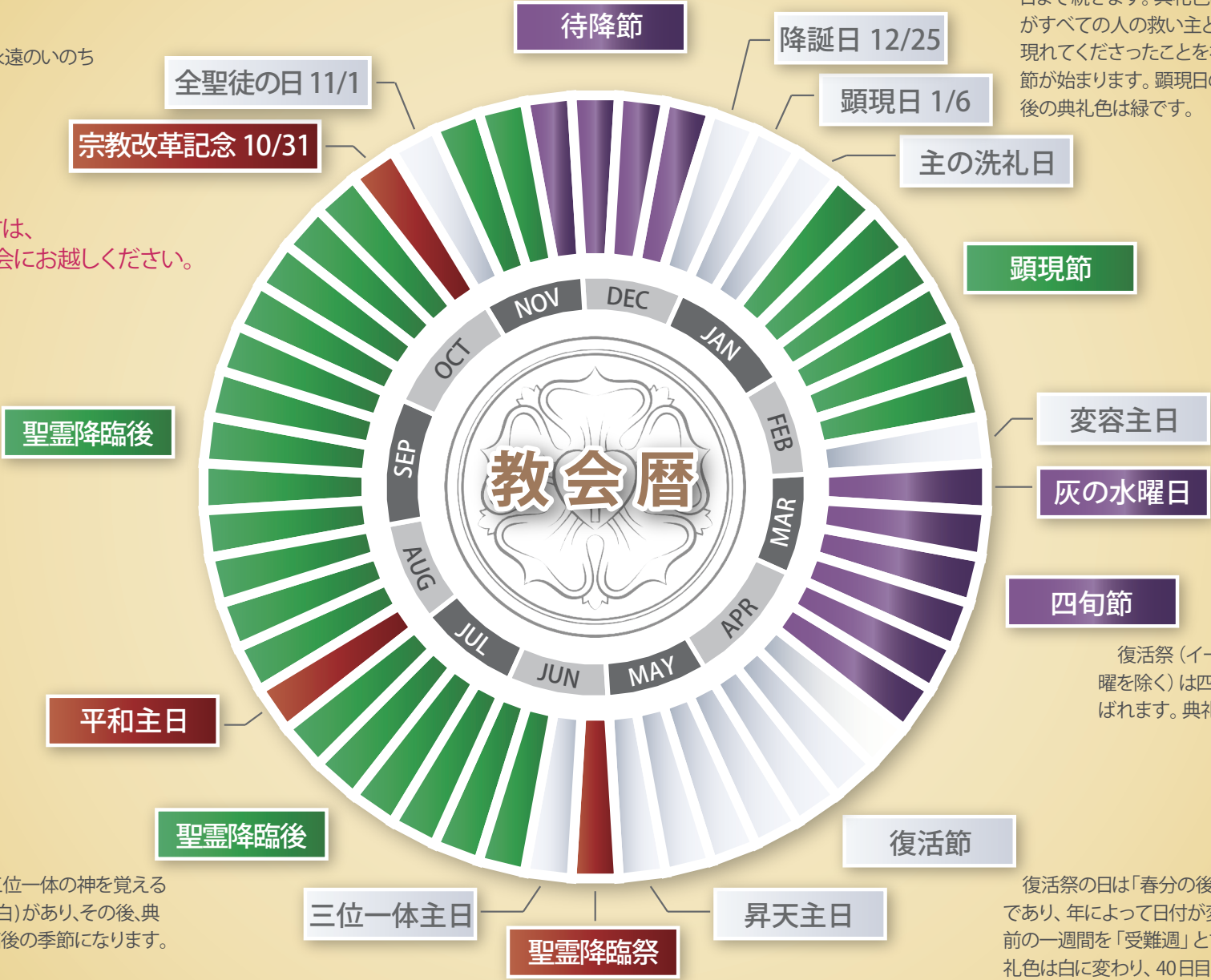
<典礼色の意味>

- 慎みやざんげ、悔い改め、王であるキリストの尊厳
- 神とキリストの栄光
- 聖霊の働き
- 希望、調和、信仰の成長と永遠のいのち

教会の一年は、クリスマスへの備えをする時「待降節」(アドベント)から始まります。11月30日に一番近い日曜からはじまり4回の日曜日があります。礼拝で使う色「典礼色」は紫です。

クリスマスを祝う「降誕節」は12月25日から1月5日まで続きます。典礼色は白です。1月6日はイエスがすべての人の救い主として世界に生まれ、人々に現れてくださったことを祝う顕現日で、ここから顕現節が始まります。顕現日の典礼色は白ですが、顕現後の典礼色は緑です。

さらにお知りになりたい方は、
ぜひお近くのルーテル教会にお越しください。



聖霊降臨祭のあとは三位一体の神を覚える三位一体主日(典礼色は白)があり、その後、典礼色は緑になり聖霊降臨後の季節になります。

そしてイースターから50日目「聖霊降臨祭」(ペンテコステ)です。イエスの約束通り、聖霊である神が弟子たちに降ったことを祝います。典礼色は赤になります。クリスマス、イースター、ペンテコステをキリスト教の「三大祝日」と言います。

復活祭(イースター)の前の40日間(日曜を除く)は四旬節(受難節、レント)と呼ばれます。典礼色は紫です。

復活祭の日「春分」の後の最初の満月の次の日曜日であり、年によって日付が変わります。特にイースター前の一週間を「受難週」と言います。イースターには典礼色は白に変わり、40日目に主の昇天があります。